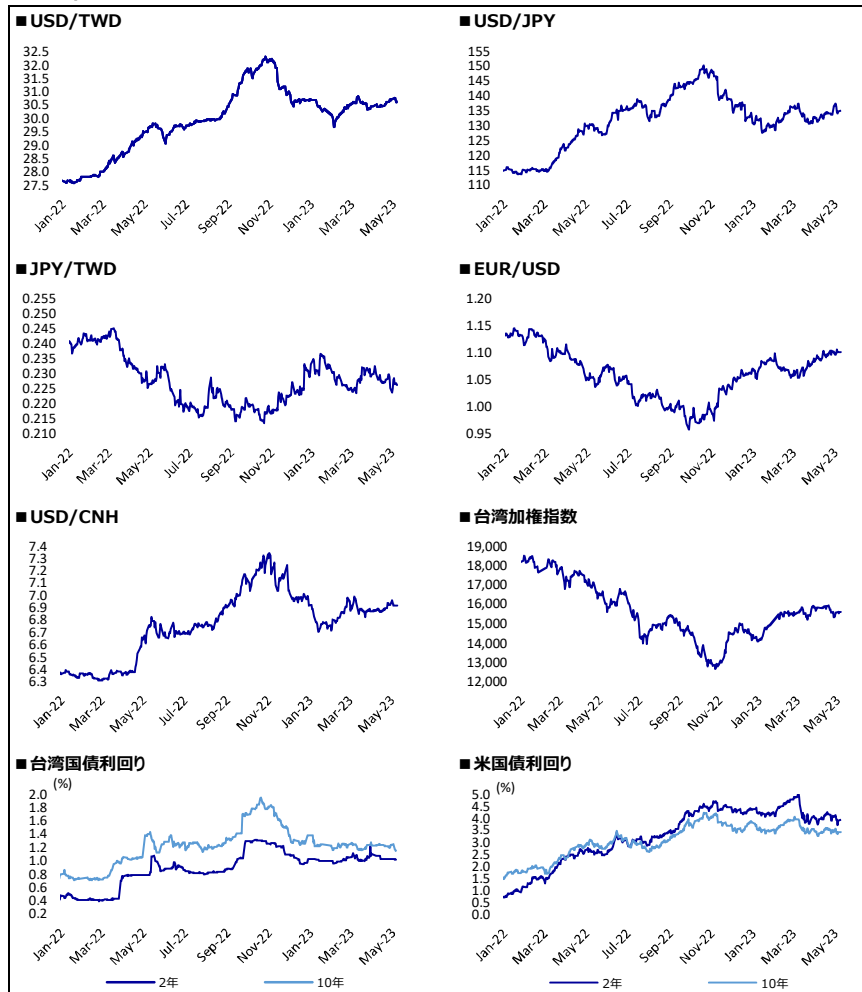


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。連休明けの週初5/2は30.800とギャップアップしてオープン後、前週末の米経済指標を受けて30.810まで上昇。しかし、この水準では輸出企業のドル売りが入り30.7台半はまで戻した。5/3はFOMCの結果発表を夜に控え、積極的な取引が控えられ、レンジで推移。5/4はFOMCで利上げの停止が示唆されたことから米金利が低下し、アジア通貨が全面高に。台湾ドルも30.6台半はまで下落したものの、勢いは続かず、30.6台後半に戻した。5/5は台湾株が寄り付き上昇したことや米地銀の破綻懸念によりドル売りが先行し、30.615まで下落。台湾株が上げ幅を縮小すると30.63付近まで戻したが、その後は動意に乏しく、終始レンジでの推移し、最終的には先週比0.3%ドル安台湾ドル高の30.641で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は93.3億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初5/1は136.23でオープン後、前週末に示された日銀の緩和姿勢が再度意識され、円売りが先行し、136円台後半に。また、米4月ISM製造業景気指数の内訳の支払価格が強かったことから、137円台半はまで上昇。5/2はRBAが予想外に利上げを決定すると、オーストラリアドルが上昇し円が売られ、ドル円もつられて137.78まで上昇。しかし、米3月製造業新規受注や米3月JOLTS求人数が予想を下回ったことから、リセッションが意識されリスクオフの円買いが優勢となり、136円台前半まで下落。5/3は前日の流れを受けて、じりじりと下落し、135円台半ばに。その後、FOMCでは予想通り0.25%の利上げを決定。発表直後は円買いで反応し、134円台後半に急落したが、米金利が上昇すると135円台後半まで戻した。しかし、パウエルFRB議長が会見で利上げ停止の可能性を示唆すると、米金利の低下と共にドル円は反落し、134円台半ばに。5/4は前日の米金利の低下を受けてドル売りが優勢となるが、ドル円は東京休場で動意に乏しい展開に。しかし、軟調な米株式市場や米地銀を巡る不透明感が煽り、リスク回避で円が買われると133.50まで下落。5/5は米雇用統計の発表を控える中、134円ちょうど付近のレンジでの推移が続いたが、ヘッドラインは予想を上回り、平均時給も予想より上昇したことからドルが買われ、135円台前半まで上昇。その後は伸び悩み、最終的に先週比1.1%ドル安円高の134.86で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.750-30.900
今週は底堅いと思込む。米4月雇用統計は米経済の底堅さを示すものとなったが、引き続き、リセッションが意識される中、台湾株は伸び悩むであろう。また、月中でもあり、台湾ドル買い需要は少ないであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：133.00-137.00
今週は底堅いと思込む。先週はFOMCで利上げ停止の可能性が示唆されたが、今週は米4月CPIの発表を控えており、インフレの状況が変わらないのであれば、追加利上げが意識され、ドルが買い戻されるであろう。引き続き、経済指標の内容に注意したい。

今週の予定

5/8 (MON)	台湾5月貿易収支
5/9 (TUE)	
5/10 (WED)	米4月CPI
5/11 (THU)	米4月PPI
5/12 (FRI)	米5月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。